

入選

一人より二人

静岡県 磐田北小学校 3年 相馬 隆之介

今日も学校がおわった。今日もぼくは一人で帰る。ぼくは一人でも平気だ。だって、いろいろな楽しいことを考えながら自分のペースで帰れるから。でも、だれもいないシーンとした道を一人で歩くのは、ちょっぴりこわい。しょうこう口で上ぐつをぬいでくつをはいたら、後ろの方から、ぼくをよぶ声がした。

「りゅうのすけくん、いっしょに帰ろう。」

その声は、同じクラスのひよりさんだった。ぼくはびっくりした。なぜかって、ぼくはほとんどいつも一人だからだ。ほぼ一人ぼっちのぼくに声をかけてくれたから、すぐにうれしい気分にかわって、なんてやさしいんだ、かみ様ありがとうございますと心の中でかんしゃした。

それからいっしょに帰れる日は、いっしょに帰った。いろいろな話をした。家族のこと、大すきな虫のこと。いっしょにバッタもとった。だれもいないシーンとした道もぜんぜんこわくなかった。本当に楽しかった。

とつてもあつい日がつづく7月のある日、たんになのまつうら先生が、こう言った。

「ひよりさんが、ほかの学校にてん校することになりました。」

ガンと、心のかねがひくい音で鳴ったような気持ちでした。もういっしょに帰れなくなってしまふ。かみ様どうしたらいいの。ぼくは、一人は平気だけど二人も楽しかった。

ありがとうをつたえたくて、ぼくは一生けんめい手紙を書いた。思い出のバッタやカマキリの絵も入れた。ぼくのせいいっぱいのありがとうの気持ちをこめて、一学期さい後の日にわたした。

ひよりさんからしたら、なんでもないことかもしれないけれど、ぼくは、その親切な気持ちにゆう気もらった。自分から声をかけることが苦手なぼくだけれど、二学期からは、自分からいろいろな人に声をかけて、ひよりさんがぼくにしてくれたみたいに、だれか一人でも温かい気持ちになってくれたらいいなと思う。

もうすぐ夏休みもおわって二学期が始まる。一学期のぼくと、二学期のぼくは、たぶんきつとちがうと思う。だれもいないシーンとした道でも、わらっていると思う。ひよりさん、ありがとう。またいっしょにバッタをつかまえようね。